



# 神奈川県立歴史博物館 だより

令和 元年 12月 10日 発行  
通巻 213号

DEC. 2019 Vol.25 No. **3**

**Newsletter of the Kanagawa Prefectural  
Museum of Cultural History**

## 【目次】

- 掃部山・彦根・豪徳寺・狛江、井伊直弼追慕の跡を訪ねて  
—特別展「井伊直弼と横浜」によせて— …… 2
- <資料紹介> 篠原歌舞伎の衣裳 …… 6
- THE けんぱく PUNCH パソコンやスマホで「蔵書検索」！ …… 8

# 掃部山・彦根・豪徳寺・狛江、井伊直弼追慕の跡を訪ねて

## —特別展「井伊直弼と横浜」によせて—

小井川 理

横浜市西区掃部山公園には、幕末の大老で日米修好通商条約を締結し横浜開港を導いた井伊直弼（1815-1860）の銅像が建っています。像が建立されたのは横浜開港50年を迎えた明治42年（1909）。建立には旧彦根藩士で専修大学を創立し、横浜正金銀行頭取を務めた相馬永胤（1850-1924）が深く関与し、像の台座は横浜正金銀行本店本館（現神奈川県立歴史博物館）や日本橋を設計した妻木頼黄（1859-1916）が手がけました。

2019年は、銅像建立から110年目にあたります。文化人としても事蹟を残した直弼の人となり、銅像建立の経緯や建立事業にかかわった人々の動向と思い、近代日本の中で揺れ動く直弼の評価、そして、その後の横浜で銅像が人々にどのように受け入れられていたのか。地域に残る資料に注目し、井伊直弼が開港の地横浜でどのように記憶されてきたのかを考える展覧会を開催します。

展覧会に向けて、直弼の業績や人からを偲ぶ地を訪ねました。本稿では、それぞれの地の井伊直弼追慕の風景を紹介します。

### 掃部山公園

横浜市西区の掃部山公園【図1】。明治42年7月、横浜

開港50周年の年に建立された井伊直弼の銅像があります。

掃部山の銅像が建立されるまでにはさまざまな苦労がありました。像の完成を遡る30年も前、明治10年代から旧彦根藩士たち間で直弼顕彰の思いが高まり、明治14年（1881）には記念碑建設に向けた運動が始まっていました。江戸時代には「不動山」、明治時代初期には「鉄道山」とも呼ばれていた戸部山（現在の掃部山）を、明治17年（1884）に旧彦根藩士らが買い取り井伊家に寄贈したのもそうした運動のひとつであったと考えられます。運動には、相馬のほか、第一次大隈内閣で司法大臣となった大東義徹（1842-1905）や、書家として有名な日下部東作（鳴鶴、1838-1922）も深くかかわっていました。

記念碑の建設は、関係者の同意や許諾、政府の承認を得ることができず難航します。建設候補地も上野公園、芝公園、靖国神社近辺、横浜戸部山、上野東照宮境内、芝東照宮近辺、神奈川県久良岐郡根岸村の日本競馬会社敷地内（現横浜市中区）、日比谷公園を転々とし、ようやく戸部山に決まったのは明治40年（1907）のことだったといえます。

関係者のさまざまな苦勞を経て建立された銅像。製作は彫刻家で女子美術大学の創始者ともなった藤田文蔵（1861-1934）があたりました。明治42年7月11日に開催された



【図1】横浜市西区掃部山公園の春 2019年3月

除幕式には大隈重信も出席し、古写真には大勢の人が銅像の周りに集まる華やかな様子が記録されています。

今、像の傍らにはライオンの頭部をあしらった大きな水場があります。裏手の銘板には「明治四十二年七月子爵井伊直安寄附」と刻まれています。井伊直安は直弼の三男。東京都世田谷区の豪徳寺には、直安が描いた袴姿の直弼像の油絵も伝えられています。銅像のある戸部山は井伊家や旧彦根藩士にとって、直弼顕彰の思いを記念する場所となりました。

その後、大正12年(1923)の関東大震災では台座が傾くなどの被害もありましたが像そのものは倒壊を免れました。しかし第二次世界大戦中の昭和18年(1943)に金属回収のため撤去され、像が再建されたのは昭和29年(1954)、開国100年祭の年でした。現在見ることができるのはこの2代目の像【図2】。彫刻家慶寺丹長けいじたんちやうの作です。直弼像は束帯と呼ばれる装束をまとっていますが、像の後方にまわると、袍(束帯の一番上に重ねる衣)の裾に「丹長作」と刻まれているのがわかります。台座裏手には再建の際の銘板があり、神奈川県、横浜市、横浜商工会議所が名を連ね、地域をあげての事業であったことがうかがわれます。

## 彦根

彦根では、明治43年(1910)11月12日、現在の滋賀県護国神社に隣接していた公園に直弼の銅像が建立され、除幕

式が行われました。

直弼は彦根藩主であった父直中なおなかの14男として生まれ、17歳からの約15年間は自ら「埋木舎」と名付けた屋敷で諸芸学問に打ち込みました。32歳の時、藩主の後継者であった兄の死去により次期藩主の地位を継ぎ、36歳で譜代大名筆頭、彦根藩井伊家30万石の当主となります。藩主となった直弼は、藩校の改革を実施して家臣の育成に力を入れ、領内の村や寺院、家臣へ先代藩主の遺金を分配し、自ら領内の巡見も行いました。青年時代の学究的な生活で育んだ幅広い視野に立ち、仁政を全うする高い志を持った藩主でした。

安政7年(1860)桜田門外の変によって直弼は突然にこの世を去ります。直弼の業績と人がらを記憶する家臣領民にとって、維新後40年を経て建立された銅像は大切な存在であったことでしょう。

彦根の銅像も、昭和19年(1944)金属回収により撤去され、昭和24年(1949)に再建されました。昭和34年(1959)に現在の所在地、彦根城の北側の金亀児童公園内に移されています【図3】。

今、彦根の直弼像の近くには、NHK大河ドラマ第1作の原作となった舟橋聖一の小説『花の生涯』の記念碑も建っています。『花の生涯』は冷酷な政治家として語られることの多かった直弼を、苦悩を抱えた一人の人間として描いて人間味あふれる直弼のイメージを発信しました。



【図2】掃部山公園の井伊直弼銅像



【図3】彦根城金亀児童公園の井伊直弼銅像



【図4】豪徳寺 東京都世田谷区 2019年3月



【図6】伊豆美神社 東京都狛江市 2019年3月



【図5】豪徳寺の井伊直弼墓所 2019年3月



【図7】伊豆美神社の井伊直弼公敬慕碑  
2019年3月

## 豪徳寺

2019年3月3日に訪れたのは、東京都世田谷区にあるごうとくじ豪徳寺【図4】。井伊家の江戸における菩提寺です。二代藩主直孝を雷から救った猫の伝説があり、招き猫のお寺としても有名です。境内の墓地には井伊家の墓所があり国史跡に指定されています。整然と区画された墓所の奥に井伊直弼の墓があります【図5】。墓前に季節の花が手向けられていました。

直弼墓の周囲には「桜田殉難八土之碑」や、豪徳寺に住んで直弼の墓を守り続けたおんじょうけんどう遠城謙道（1823-1901）の墓があります。墓地には井伊家旧家臣の墓もあり、日下部鳴鶴や遠城謙道の顕彰碑も建っています。江戸詰めの彦根藩士たちにとって、そして明治を迎えた後も東京に留まって新たな活躍の場を模索していく彦根人にとって、豪徳寺が心を寄せる場所であり続けたことを感じさせます。

旧暦3月3日は桜田門外の変で直弼が落命した日。墓所ですれ違った街歩きのグループもそんな歴史を語り合っていました。

## 伊豆美神社

豪徳寺を訪れた同日、小田急線で西に6駅、狛江で下車し、東京都狛江市中和泉にある伊豆美神社にうかがいました。鳥

居をくぐり参道をまっすぐに進んだ先に社殿があります【図6】。左手の神楽殿の隣に「故正四位上左近衛中将井伊直弼公敬慕碑」と刻まれた巨大な一枚岩の石碑が建っています【図7】。明治34年（1901）に建てられた「井伊直弼公敬慕碑」（狛江市指定文化財）です。

江戸時代、現在の東京都世田谷区から狛江市の一部には彦根藩世田谷領が置かれていました。伊豆美神社のある旧和泉村の一部も彦根藩領でした。敬慕碑の建設は、和泉村出身で井伊家に儒学者として仕えた小町雄八（玉川）が著し藩土らの手本にもなっていたという『自修編』が見いだされたことを契機に、直弼と小町雄八の業績を狛江村の誇りとして伝えるため、伊豆美神社宮司であった小町貞彦によって企画されま

した。建碑に賛同し寄付金を拠出した人には再版された『自修編』が贈呈されました。

台座には碑建立にあたり寄付金を拠出した378人の名前が刻まれています。狛江村のみならず三多摩地域、神奈川県橋本郡の人々の名もあり、事業の広がりをうかがわせます。

## 掃部山公園、再び

再び、掃部山公園。毎年8月第4土曜日には「西区虫の音を聞く会」が開催されています【図8】。

お祭りは金属供出により回収された銅像が再建される昭和29年（1954）以前から、地域住民の発案で子どもたちを楽しませるイベントとして始まっていました。昭和40年（1965）からは「虫の音を聞く会」となり、地域の人々と西区の協力のもと、銅像前の広場にはお茶席が設えられ、舞台では琴や尺八の演奏が行われ、公園内の広場には夜店が立って人々を楽しませています。発足当初から運営の中心を担っていた方に、お祭りの時に立てられる竿提灯は秋田の竿燈を参考に考案したと教えていただきました。地元の酒屋さんや経理屋さん、工務店も手伝って手作りのところから始まったお祭りだったそうです。

今、お祭りの開会式では、横浜で井伊直弼流の茶道を伝えるせつそうあん摂草庵流・前田滴水氏による直弼銅像への献茶が行われます。銅像再建前に始まったお祭りの場に、再建された銅像が加わり、直弼に思いを馳せる催しもなって、新たな行事に育っていく。「虫の音を聞く会」は、掃部山の銅像が再び地域に根付いていく様子を示しています。

\*

初代なおよまさ井伊直政の入封以来、井伊家が治めた城下町彦根。菩提寺として江戸時代を通して井伊家と深い繋がりがある豪徳寺。彦根藩領があった世田谷や狛江。そして、井伊直弼の尽力で締結された日米修好通商条約を発端として国際貿易港として成長した横浜。ゆかりの地を訪ねて感じたことは、それ



【図8】西区虫の音を聞く会 2019年8月

ぞれの歴史を持つさまざまな場所で、それぞれの形で、井伊直弼が慕われていたことです。「勅許を得ずに条約締結を断行」「安政の大獄で多くの思想家を処断」といった言説がイメージさせる人物像とは別のところで、その業績と人からを記憶し記録していこうとする営みのあったことを今に残る追慕の痕跡が伝えています。そして、追慕の空間がやがて地域の人々が集う場となり、あるいは、墓所や銅像や記念碑が歴史遺産として人々に共有されていく様子は、それらの空間や痕跡が歴史上の人物である直弼と地域を繋ぐ新たな役割を担っていることも示しています。

掃部山や彦根の銅像、豪徳寺の墓所、伊豆美神社の記念碑を展示室に運んでくることは残念ながらもありません。しかし、こうした直弼追慕の事業にかかわる様々な資料、直弼を記憶する人々によって進められた再評価の活動を丁寧に紐解き、直弼を記念する歴史遺産と地域との繋がりを考えていければと思っています。

（こいかわあや・主任学芸員）

### 【主な参考文献】

- ・彦根城博物館『井伊直弼のこころ一百五十年目の真実—』2014年
- ・彦根市教育委員会事務局文化財部文化財課『NAOSUKE・直弼・なおすけ—近現代の中の井伊直弼—』2016年
- ・彦根市『新修彦根市史 通史編 近代』2009年
- ・彦根市『新修彦根市史 史料編 近代1』2003年
- ・狛江市『狛江市史』1985年
- ・狛江市教育委員会ホームページ

※「西区虫の音を聞く会」の歴史について、西区連合町内会長金子勝雄氏、横浜市西区地域振興課よりご教示を賜りました。

掃部山銅像建立110年

## 特別展 井伊直弼と横浜

会期：2020年2月8日（土）～3月22日（日）  
休館日：毎週月曜日（ただし2月24日は開館）  
会期中、一部の作品・資料の展示替を行います。

本稿で紹介した掃部山公園、豪徳寺、伊豆美神社は特別展会期中に実施する現地見学会で訪問する予定です。詳細は展覧会チラシ等をご覧ください。

## ＜資料紹介＞<sup>しのぼら</sup>篠原歌舞伎の衣裳

三浦 麻緒

江戸時代後期の文化文政年間（1804-1830）から昭和初期まで、全国各地では地芝居が盛んに行われていました。地芝居とは、都市の大歌舞伎に対して地方の素人集団の歌舞伎を指します。農村歌舞伎・村歌舞伎・地狂言などとも呼ばれていました。神奈川県内でも相模川流域をはじめ多くの地域で地芝居が上演されており、戦後の調査では地芝居を行う舞台が90棟以上存在したという報告があります。関東地方においては、群馬県に次いで2番目に多い舞台数で、本県の地芝居の盛況ぶりを窺い知ることができるでしょう。地芝居を演じたのは、地方興行に訪れた本職の歌舞伎役者から演技指導を受けた地域の若者たちで、時にはその地に定住した歌舞伎役者と共に近隣を興行することもありました。

今回紹介するのは、かつて人々の娯楽であった地芝居を演者と共に彩った豪華な衣裳で、近年再整理を行った当館所蔵の津久井郡<sup>まぎの</sup>藤野町<sup>しのぼら</sup>牧野篠原（現相模原市緑区牧野）の地芝居衣裳です。

### 篠原歌舞伎とは

篠原の地芝居は篠原歌舞伎または篠川（篠原・川上）劇団とも呼ばれ、明治期から昭和10年代まで毎年秋に地域の人々を中心に行われていました。創始者は、東京で歌舞伎修行をしたのち篠原の人々に伝授した市川岩寿（本名 小池岩太郎・生年不明 - 大正13年 [1924] 没）と地域の住民であった市川佐団寿（本名 武内佐助・明治3年 [1870] - 昭和13年 [1938] 没）の2人と伝えられています。佐団寿は同町鎌沢に住む本職歌舞伎役者であった尾上男女蔵（明治9年 [1876] - 昭和5年 [1930] 没）の指導も受け、<sup>ぎだゆう</sup>義太夫語りや振付も担当し、共に地方興行に参加することもありました。



【図1】 大石神社拜殿兼回り舞台  
（平成29年 [2017] 撮影）

牧野の中でも篠原は特に地芝居に熱心だったといわれ、上演は同地区内の鎮守大石神社において奉納神事として行われました。ここは、日清戦争が終結した翌年の明治29年（1896）に建てられた、本殿と舞台が接続する珍しい形式の神社です【図1】。9本のうで木で支えられた回り舞台・太夫席・せり上げなど、神社の拜殿でありながら舞台としての機能が備えられ、拜殿正面の<sup>もみ</sup>樑の梁の後方は中2階になっていて、上演の際は化粧場兼衣裳着付けの楽屋として使用し、普段は衣裳や小道具類を保管していました。一般的に地芝居の演目は、人形浄瑠璃の作品を歌舞伎化した時代物の義太夫狂言が多く、篠原でも衣裳に縫い付けられた白布から、「伊賀越道中双六」「絵本太功記十段目」「奥州安達原」「近江源氏先陣館」「仮名手本忠臣蔵」「勧進帳」「三番叟」「菅原伝授手習鑑」「本朝廿四孝」「番町皿屋敷」「伽羅先代萩」「義経千本桜」などが上演されていたことがわかります。佐団寿家に残されていた明治10年（1877）から大正10年（1921）までの筆写本の台本30冊もほとんどが義太夫狂言でした。これらの台本は昭和40年（1965）に早稲田大学文学部演劇専修の郡司正勝研究室に寄贈された記録があります。



【図2】 打掛 黒羅紗地唐獅子牡丹文様

## 衣装 ～購入の経緯と現状

篠原歌舞伎衣装は、明治31年（1898）に隣村の相模湖町内郷村の山林30ヘクタール※を購入する話が出たが、山林購入はせずにお金で東京歌舞伎の千両役者が着用した衣裳類230点を買ったといわれています。これらは、佐団寿が浅草の芝居小屋で中古品を30～50円で購入しました。一般的に、地芝居衣装は専門の貸衣裳屋で借りるほか、当地のように近隣の大都市で購入することが多かったようです。

現在当館には衣裳104点・小太刀18点が収蔵されています。明治31年（1898）の購入数から比べると半分以下ということになりますが、衣裳等は消耗品のため、補修しながら大事に使っていたとしても途中で処分したものも多いでしょう。衣裳に近づいてよく見ると補修跡や汗染み、化粧などの汚れもみられ、当時の演者の息遣いが聞こえてくるようです。しかし遠くから観るととても華やかで、東京歌舞伎で多くの観客を楽しませ、さらに地芝居においても農村の人々を楽しませたであろうことがよく分かります。

衣裳内訳は、刺繍の華やかな打掛【図2】のほか、袴・着付・十二単・襦袢【図3】素網・引拔・遊女前掛【図4】・四天・鎧など歌舞伎特有の衣裳が揃っており、デザインは他地域の地芝居衣装と同じく、力強い獅子や龍、鯉の滝登りなどの大きな柄や、吉祥文様の刺繍や切付（アップリケ）があり大変華やかです。多くの衣裳には漢数字の通し番号や役名が記入された白布が縫い付けられています【図5】。近隣へ貸し出していたと伝えられることから、白布は衣裳の管理のために付けられていたのでしょう。

## 地芝居の衰退と県博への寄贈

昭和10年代以降、映画・ラジオの普及による娯楽の変化、戦争などの社会情勢による中断、戦後の高度経済成長やテレビの普及による生活の変化等によ



【図3】襦袢 赤地金繡白梅文様



【図4】遊女前掛  
茶ビロード地金繡欄干と  
九尾狐文様



【図5】羽織衿元に縫い  
付けられた白布  
「甲新式拾号」

り、地芝居は全国的に衰退の道をたどりました。篠原においても例外ではなく、地芝居は昭和10年代から次第に行われなくなったといわれます。太平洋戦争後もしばらく上演されていませんでしたが、昭和40年（1965）10月に大石神社、そして第2回神奈川県民俗芸能大会（横浜・高島屋ホール）で「絵本太功記十段目」が上演されたのを最後に篠原歌舞伎はその歴史の幕を閉じました。多くの人々を魅了した華やかな衣裳の行く末が案じられましたが、最終公演翌日に篠原歌舞伎保存会から当館に寄贈されました。

\*

100年を経ても人々を魅了する華やかな地芝居衣裳。台本や舞台分布の調査に比べると、衣裳研究は1980年代まであまりされてきませんでした。近年、各地に残る地芝居衣裳の調査が進んでいます。

当館には同地の芸能を伝える藤野町牧野大久和の浄瑠璃人形や津久井町根小屋の地芝居資料もあり、現在修繕や資料調査を進めています。いずれ展示や報告書等で皆さまに紹介できるように努めていきたいと思えます。

（みうら あさを・非常勤学芸員）

※十町歩（約9ヘクタール）とも伝えられている。

## 【主な参考文献】

- ・郡司正勝『地芝居と民俗』1971年
- ・角田一朗『農村舞台探訪』1994年
- ・永田衡吉『神奈川県民俗芸能誌』1967年
- ・藤野町教育委員会『ふじ乃町の芸能』1987年
- ・守屋毅『村芝居 - 近世文化の裾野から - 』1988年



**パソコンやスマホで「蔵書検索」!**

神奈川県立歴史博物館のミュージアムライブラリーをご存知ですか? 博物館の展示を観て、さらに詳しく知りたい、調べてみたいと思ったときに役立つ図書や雑誌を集めた小さな図書館です。実は、最近、ライブラリーの「蔵書検索」システムがホームページから使えるようになりました!

おや、おなじみ営業部長のパンチの守が、このウワサを聞きつけてライブラリーにやって来たようです。

**パンチの守(以下、パ):**ライブラリーの「蔵書検索」がホームページからできるようになったというのは、本当かろう?

**司書(以下、司):**あ、お耳に入りましたね、営業部長! そうなんです、当館ホームページのトップページ右下にバナーができたんですよ。

**パ:**さすが、ケンパクじゃな!・・・ところで「蔵書検索」とはなんじゃ?

**司:**あらあら! 「蔵書検索」は県博ライブラリーが所蔵している図書、図録、雑誌を、パソコンやスマホで簡単に探せるシステムなんですよ。

**パ:**ほう、それは便利そうじゃ。ワターシは暇をみつけてはライブラリーをのぞいておるが、「蔵書検索」を使

えば、普段は入れない書庫のものも探せるのかのう。

**司:** そうなんです。ライブラリーの書架にあるものだけでなく、書庫にある約3万冊の図書・図録、約2,500タイトルの雑誌も検索できますよ。当館では、北海道から沖縄まで全国の博物館や美術館の図録を現在約16,600冊も所蔵しています。特に、神奈川県や東京都のものは充実してるんですよ。図録の他に、収蔵品目録や美術全集、神奈川県内の市町村の歴史や民俗に関する調査報告書などもたくさんあります。

**パ:**それが、パソコンやスマホでパッと探せるんじゃない? 早速「蔵書検索」を使って、次の特別展の井伊直弼の資料を探してみるぞ。みつけた本は借りられるのかのう?

**司:**残念ですが、ライブラリー内での閲覧のみで、貸出はできないんです。調べたいときにいつでも、誰でも資料を利用できるようにしておくためです。コピーは著作権の範囲内でとれますよ。それでは、ご一緒に井伊直弼の資料を検索してみましょうか。

\* \* \* \* \*

**パ:**おおっ! ワターシでも簡単に使えたぞ! みんなも「蔵書検索」を使ってライブラリーを活用するのじゃ!

(森 由紀/もり ゆき・司書)



①枠内に「井伊直弼」と入れて検索をタップ



②資料がリストアップされる



③資料名をタップすると詳細が見られる



◀ 営業部長 パンチの守

